

羅 針 盤			方 策		点検・評価		達成度		達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目	方 策		自己評価	外部アンケート等	総合			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育課程を編成していますか。	① 実験や実習を中心に主体的に取り組める科目、進路に応じた選択科目を多く設定している本校の教育課程に満足している生徒の割合が70%以上である。	・生徒の進路希望の実態を把握・検証し、生徒の実態に即した教育課程を編成する。		A	B	A	今後「12の力」の育成と探究的な学習活動を軸に、生徒の実態を的確に把握し、生徒の興味・関心を生かしながら、主体的に学びへ向かう姿を中心に据えた教育課程の編成を行う。	・「12の力」が定着してきていると感じる。 ・「12の力」を日常に即してわかりやすく周知し、日々の気づきから生徒の主体性に繋げられる教育課程を築いてほしい。 ・スクールポリシーは、自己認識と自己啓発に生きる。サポート体制を充実させ、上級生が下級生に伝える場面をより増やすことが求められる。 ・生徒自身が「12の力」を視点として自分の成長を振り返り、より一層充実した探究活動を行えるよう、定期的な振り返り活動を探究的な教育活動の流れの中に位置づけていけるとよい。 ・教員も「12の力」をよく理解し、日常の教育活動の中で、生徒に具体的なフィードバックができることよい。 ・教育課程の「目玉」をツールとして学校全体のコミュニケーションが深まると、特色ある学校づくりが一層進むと考える。	
	2 特色ある取組を行っていますか。	① スクールポリシーに明記されている「12の力」が身につけていると感じている生徒の割合が70%以上である。 ② 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合が70%以上である。	・生徒が自ら考え、主体的に学校行事に参画でき、「12の力」の向上を実感できる校内サポート体制の拡充を図る。 ・探究的な活動を教育活動の様々な場面に積極的に取り入れながら、生徒に「12の力」の向上やそのよさに対する自覚を促す。 ・教育課程の特色を活かして様々な学習活動を行い、生徒の学習意欲や自己有用感を高める。		B	C	B	生徒自身が自らの成長を実感できるような振り返りの場面を充実させながら、引き続き生徒主体の探究的な教育活動を促進し、「12の力」の向上につなげたい。 生徒自身によるSNS発信などの広報活動を支援し、学校の魅力や自分たちの活躍を外部に伝える経験を通じて、活動への手応えや自分たちの居場所としての実感を育む学校づくりを進めていく。		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	① 年2回実施する授業アンケートの結果、授業が改善されたとする生徒の割合が70%以上である。 ② 授業がわかりやすいと評価している生徒の割合が、全ての教科で70%以上である。	・記述式のアンケートを授業にフィードバックし、恒常的に授業改善に取り組む。 ・授業改善に係わる校内研修や授業アンケート等を活用し、指導方法がよりよいものとなるよう工夫する。		A	D	B	各科目・各教員に対して生徒の意見が反映されるような授業アンケートをとり、職員に迅速にフィードバックする。また、教科を越えた職員相互の授業見学を行うとともに、職員研修を通して授業改善につなげる。 生徒一人一人に応じた指導を基盤に、「わかる楽しさ」を実感できる授業を推進する。教科内・教科間の連携や教師同士の学び合いを活性化させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、学校全体で授業改善に取り組んでいく。	・授業改善が着実に進んでいることが見て取れる。探究を軸として、引き続き生徒の主体的に考える力を伸ばしてほしい。 ・生徒の実態を踏まえた授業改善に関わる研修や、アンケートを活用した授業方法の改善、工夫等は極めて高く評価できる。 ・未来探究、理数探究ともよく努力して生徒の実力養成に結びつけている。 ・すべての授業が確かな学力を培うための土台である。「12の力」を意識し、よりよい進路実現に結びつけてほしい。 ・授業がわかりやすいと回答している生徒は多いのは素晴らしい。 ・学習活動を丁寧に組み立て、生徒の自己有用感を高めようとしている。自己評価はもう少し高くてもよい。	
	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	① 未来探究・理数探究の内容に満足している生徒の割合が70%以上である。 ② 授業への取り組みが進路実現に関わりがあると考えている生徒の割合が70%以上である。	・探究内容を検討し、3年間を見通した計画的な探究を実施する。 ・各教科で12の力を意識した授業を実施する。		A	C	B	生徒の実態に合わせて探究内容を工夫する。内容とともに生徒が達成感を感じられるよう指導の工夫をする。生徒の進路希望に合わせた柔軟な対応を行い、探究への参加の意義を感じられるよう工夫する。 教務部とも連携し、教科横断的な指導や授業実践における探究の視点を取り入れていく。学習が将来の仕事にどのように結びついていくかを考えさせるキャリア教育を実践する。社会や職業とのつながりを意識して教材を工夫することで、生徒の知的な好奇心を喚起し、将来についてイメージできるようにする。		
	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	① 日頃の清掃活動や環境美化に積極的に取り組む生徒の割合が70%以上である。	・清掃活動が充実して行われるよう、道具等の環境を整える。 ・日々の清掃活動において、生徒間で協力して効率的に行うことや、清掃が行き届いているかを教師が支援・監督する。		C	B	B	清掃活動が充実するよう担当教諭で協議し、道具の充実を図った。また、職員全体に美化啓発を呼びかけ、担当清掃箇所の適正化にも努めた。生徒の日々の清掃活動をより活発化させること、校内美化を促すよう働きかけることを継続して呼びかけていくこと、具体的な仕組みづくりを実行したい。		
	6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	① いじめの防止や早期発見に関する学校の取組に理解を示している生徒が70%以上である。	・各学期1回および問題発生時に臨時のアンケートを実施し、いじめの把握と対応を早期から厳格に行う。 ・職員会議を利用し、短時間研修を実施し、教職員の知見を深める。 ・いじめに係る取組が行われていることを、生徒指導だよりやPTA会報などを通じて積極的に情報発信を行う。		A	C	B	いじめの認知件数は減少傾向にある。いじめの認知件数は、必ずしも少なければ良いというものではないが、先生方のきめ細かい生徒観察と生徒指導が奏功しているものと自負している。今後は、いじめ問題に係る取組を生徒・保護者へしっかり伝えるように、入学者説明会、入学式、始業式、終業式、学年別懇談会、生徒指導だより、PTA会報、スマート連絡帳などを通じ、いじめ問題に対して取り組んでいる内容と方法を発信し、その回数も増やすなど工夫する。		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	① 各月の遅刻率が2.5%以下である。 ② 生徒の自転車登下校時における交通事故が0件である。 ③ 悩み事などの教育相談の体制を熟知している生徒の割合が70%以上である。	・担任が生徒へ働きかけるとともに、遅刻生徒の保護者と連絡を取り協力を得る。 ・生徒指導部職員が登校時指導を行い、基本的な生活習慣に係る啓発のための声掛けを積極的に行う。 ・交通安全教室や自転車点検の充実を図り、生徒の交通安全に対する意識を高める。 ・スクールカウンセラーと協力し、生徒が相談しやすいと感じられる教育相談体制の充実を図る。 ・悩みや相談事がしやすい雰囲気づくりを行うとともに、生徒や保護者への情報発信を積極的に行う。		C		C	生活習慣の乱れと時間を守ることの重要性を生徒自身に理解させるとともに、保護者への協力依頼を粘り強く行っていく。また、交通事故の未然防止の観点からも、5分前登校から10分前登校を推進し、基本的な生活習慣の確立に向けた取組強化を図っていく。こうした取組を、担任だけの指導にとどまらず、チーム学校として、授業中の生徒指導のより一層の充実にも力を入れていく。 交通事故を他人事として捉えている生徒が多い。その意識の現れがヘルメット着用率の低さである。ヘルメット着用指導に絡めて、身近に起こっている大きな事故の事例などを伝え、他人事から自分事に感じ取れるような取組と指導内容を検討する。保健の授業でも交通安全を重点指導項目として指導することが望まれる。また、外部講師を招いた講演会を企画したり、意識の啓発に努める。 SCを利用する生徒は減少傾向であるが、継続して利用する生徒が多く、SCと生徒の信頼関係が構築できていると考えられる。悩み事を相談することが、「人に弱みを見せたくない」「相手を悩ませてしまうのでは」「悩みを否定されるのが怖い」「どう話したらいいかわからない」「そもそも他人に伝えることではない」などの心理傾向を持つ生徒が潜在していることを忘れてはならない。今後はSCのみならず、民間の相談機関も気軽に相談できる雰囲気作りを行ってきたい。	・清掃や環境美化は、清潔な学校で安心して学べる日常を形成する。心の安定にも繋がることを生徒に伝えてほしい。 ・いじめに関わる様々な校内体制を整えている。生徒や保護者が相談しやすい環境が整備されていることを周知し、日々の話活動の中でいじめの種を未然に把握し、防ぐことが求められる。 ・いじめ問題に対する認識が学校と保護者で差が見られる。保護者の評価が低い理由をPTAの会議で話し合ったり、保護者面談等の機会に学校の取り組みについての意見を担任が聞いてみたりしてはどうか。 ・いじめは、深刻な問題である。生徒が被害にあわないように、引き続き対策を講じてほしい。 ・保護者とのコミュニケーションの中からよい情報が得られるかもしれないので、広報の仕方を工夫していきくとよい。 ・社会人として、遅刻は決して許されない雇用の基本である。体調不良を除いて、社会人となるための自覚を育ててほしい。基本的な生活習慣の確立には、保護者の啓発も欠かせない。 ・自転車に乗りながらスマホ防止は、命の安全を守るためにも、より日常的な視点で指導を重ねていくことが効果的と思う。 ・遅刻やヘルメット着用など基本的な生活習慣やルールに関する評価が低く、今後の課題である。 ・遅刻防止は、家庭内のこととも思えるが、学校でも引き続き対策を講じてほしい。 ・教育相談に関しては、SCとの協力も踏まえて、より相談しやすい雰囲気をつくっていることと評価できる。 ・生徒会活動も、21年間の伝統を引き継ぎ、各行事が充実し、生徒の意見や要望を反映した諸活動が展開されている。 ・部活動についても、人間的な成長を目指し、充実した活動が展開されている。 ・指導者と生徒の関係も大切な勉強といえる。より多くの生徒が積極的に活動できるよう、地域の中学校とも連携を図り、活動を盛り上げるものにしてほしい。 ・家庭生活や学校外における生活習慣、規範意識が低くなる傾向がある年代であることから、粘り強く関わって、最悪の事態とならないよう導いてほしい。	
	8 生徒会活動・部活動の充実・発展に努めていますか。	① 生徒会活動が充実していると評価した生徒の割合が70%以上である。 ② 部活動が充実していると感じている部員の割合が70%以上である。	・生徒が学校生活に対する意見・要望を提案する機会を設ける。 ・生徒が各行事に積極的に参加し、学校生活を充実したものに。 ・各顧問が積極的に部活動に関わり、計画的・組織的に部活動を推進する。 ・安心、安全に活動できる環境を整備するため、部顧問会議を行って十分な情報共有を図り、各部の運営に活かすよう努める。		A	B	A	文化祭・球技大会などの学校行事を行うことができた。開催にあたり立案から運営を生徒会がリーダーシップをとって開催できたことが意義深かった。生徒は達成感・充実感を味わったことに加え、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てることに繋がった。今後も継続してきたい。 職員会議の後に進めている部顧問会議において、安全管理計画・安全指導計画の確認や見直しに加え、「部活動離れ」「部活動の地域移行」についても検討の場を設けて対応策を考える必要性を感じている。安心・安全な活動を推進するとともに、生徒・保護者のニーズに対して、いかに適正な部活動運営をしていくかが課題である。		
	9 計画的な指導を行っていますか。	① 「進路通信」など学校からの進路情報が役立つと評価する保護者の割合が70%以上である。 ② 進路行事や総合的な探究の時間、LHR等で実施している進路学習が、進路決定や進路実現に役立つと評価する生徒の割合が70%以上である。	・「進路通信」を活用して家庭内での相談に生かせるようにする。 ・保護者の進路指導に対する要望を指導計画に反映させる。 ・学年の段階に応じた進路学習を計画する。 ・キャリアパスポート等での振り返りを通し、様々な経験と関連づけて自分の興味関心や成長を説明できるようにする。		A	C	B	「進路通信」・「進路の手引き」に、先輩の体験談や資料等、生徒にとってより身近な話題を充実させる。進路の手引きをHR活動や三者面談等、実際の指導場面で活用していく。進学希望の生徒には、大学入試の激しい環境変化をリアルタイムで伝えられるよう工夫する。就職希望の生徒に対しても適切な情報提供を行う。 地域と連携した「総合的な探究の時間」のカリキュラムを引き続き充実させる。進路希望に合わせた上級学校見学や職場見学、インターンシップなどを実施し、進路意識を向上させる。より実践的な活動を展開することで、自主的に探究に取り組ませ、目的意識の醸成につなげる。		
	10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	① 進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒の割合が70%以上である。	・自己理解と職業や上級学校についての知識を深めさせ、進路実現への道筋を示す。 ・二者面談を通じて進路意識の向上と進路方針の明確化を図る。		B	B	B	それぞれの生徒が目的意識を持って、就職・進学することができるように、適切な情報提供を通じて意識の向上を図る。平日放課後課外や難関大学セミナー等を実施し、生徒の進路に対する意識を向上させる。平日放課後課外や模試の受験等、進路実現に向けた着実な取り組みを実施し、進路意識を高める。 スマート連絡帳を、保護者連絡時における有効な通信手段として、引き続き適切に活用していく。		
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	11 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	① PTAの様々な連絡について、70%以上の保護者に確実な周知をはかる。 ② PTA行事(総会、学年・学級懇談会、専門委員会の活動)に参加している保護者が70%以上である。	・スマート連絡帳等を活用し、必要な情報を素確実に保護者に配信する。 ・PTA行事(総会、学年・学級懇談会、専門委員会の活動)の内容の充実、ICT活用による簡素化を図り、保護者が参加しやすい環境を整える。		A	A	A	地域の方々や中学校の生徒・職員を対象にした「ひびき」を、スマート連絡帳で保護者にも送り、生徒や学校の動向がわかりやすく伝わるよう努める。生徒から保護者への行事・活動の連絡をどのように徹底するか、PTA活動の意義をどのように保護者に理解していただくかについて、引き続き検討を進めたい。	・スマート連絡帳を保護者との相互理解が高められるように活用し、保護者が学校理解を深められるように努めてほしい。 ・地域拠点校としての広報誌「ひびき」を保護者や地域に伝えるとともに、中学校や小学校にも広げ、PTA活動も小・中・高と包括した活動に結びつけられれば、生徒募集にも有効なのではないかと。 ・生徒の学力に合わせた「個別最適化学び」による基礎学力の底上げに、AI教材やオンラインソフト等ICTを活用してはどうか。 ・ICTを活用した情報発信や保護者との関係づくりが軌道に乗ってきている。次年度の課題を踏まえて引き続き尽力してほしい。 ・大学や企業との連携、専門人材からの指導などを効果的に活用し、より積極的な授業や進路学習等に更なるICTの活用を望みたい。 ・Googleフォームの活用は、より迅速な集約、フィードバックが可能となり、改善に関する「せーど」感が増して評価できる。	
	12 ICTを活用した指導を行っていますか。	① ICTを活用した授業に満足している生徒の割合が70%以上である。 ② ICTを活用したアンケートに生徒・保護者の70%以上が満足している。	・各教科担当がDXハイスクール事業により整備されたICT機器や大学や企業との連携による外部専門人材・コンテンツ等を積極的に活用し、より分かりやすい授業の展開を図る。 ・職員間で端末の活用に関して情報共有を図り、ICTを活用したさらなる授業改善に努める。 ・Googleフォームやスマート連絡帳のアンケートフォームを活用し、分かりやすく回答が容易なアンケートの作成を行う。		A	C	B	端末の効果的な活用法について、職員間での情報共有や校内研修を継続的に実施し、授業改善につなげる。また、DXハイスクール事業で整備されたICT機器を積極的に活用し、生徒の情報活用能力の育成や探究的な学びの充実を図っていく。 アンケート実施者・回答者ともにICTを活用したアンケートに習熟してきているが、まだ十分に活用されていない業務もある。業務の精選もしつつ、引き続きICTを活用した業務改善を推進していく。		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	13 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	① ICTを活用したアンケートに生徒・保護者の70%以上が満足している。	・Googleフォームやスマート連絡帳のアンケートフォームを活用し、分かりやすく回答が容易なアンケートの作成を行う。			B	B	アンケート実施者・回答者ともにICTを活用したアンケートに習熟してきているが、まだ十分に活用されていない業務もある。業務の精選もしつつ、引き続きICTを活用した業務改善を推進していく。		